

平成28年1月

塩地英希 学位論文審査要旨

主査 渡邊達生

副主査 谷口晋一

同 山本一博

主論文

Bezafibrate improves insulin resistance evaluated using the glucose clamp technique in patients with type 2 diabetes mellitus: a small-scale clinical study

(ベザフィブラートは、2型糖尿病患者におけるグルコースクランプ法を用いて評価した、インスリン抵抗性を改善する：小規模臨床研究)

(著者：塩地英希、大倉毅、藤岡洋平、角啓佑、山本直哉、中西理沙、松澤和彦、伊澤正一郎、大倉裕子、井上和興、上田悦子、加藤雅彦、谷口晋一、山本一博)

平成26年 Diabetology & Metabolic Syndrome DOI:10.1186/1758-5996-6-113 8pages

参考論文

1. $20 / (\text{fasting C-peptide} \times \text{fasting plasma glucose})$ is a simple and effective index of insulin resistance in patients with type 2 diabetes mellitus: a preliminary report

($20 / (\text{空腹時Cペプチド} \times \text{空腹時血糖})$ は2型糖尿病患者のインスリン抵抗性における単純で効果的な指標である：一次報告)

(著者：大倉毅、塩地英希、藤岡洋平、角啓佑、山本直哉、松澤和彦、伊澤正一郎、木下博司、大倉裕子、加藤雅彦、谷口晋一、山本一博)

平成25年 Cardiovascular Diabetology DOI:10.1186/1475-2840-12-21 8pages

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は人工膵臓および食事負荷試験により、高中性脂肪血症薬であるベザフィブラートでのインスリン抵抗性改善を検討したものである。その結果、末梢組織のインスリン抵抗性を測る上で最も有用な人工膵臓を用いて、ベザフィブラートの骨格筋におけるインスリン抵抗性改善効果が示された。またベザフィブラートによりHbA1cや脂質、肝機能改善が認められた。さらに食事負荷試験からはインスリン分泌の変化を伴わない食後血糖値の改善が示された。本論文の内容はベザフィブラートが新たなインスリン抵抗性改善薬となり得る可能性を示すものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。